長浜市市民自治基本条例策定委員会(第6回)会議要点録

日 時 : 平成21年5月7日(木)午後3時00分～

場 所 : 長浜市役所別館2階 第3委員会室

出席委員 : 12名

欠席委員 : 4名

事務局 : 市民協働課 宮川課長、酒井副参事、菅谷主査、佐治主事

助言者 : 今川 晃(同志社大学政策学部教授)

1. 開会(進行:宮川課長)

2. あいさつ(高橋会長)

(各委員、今川教授に本日の「第6回 長浜市市民自治基本条例策定委員会」への出席に対する礼を述べ)

委員各位には、一昨年度からこの市民自治基本条例の策定にあたり、今回を含め12回の委員会と部会のほか、のべ18回にわたるワーキング会議に参加いただき、条例骨子ともいえる具体的な内容について検討をしていただいていたことにより、その成果を「条例に規定すべき内容」としてとりまとめ、本日の会議で最終的な確認をしていただくまでになった。

本日は、この検討成果を確認しながら、さらに今川先生の講評をいただいたうえで、市長のもとに提案をしたいと考えている。

そうしたことから、本日の会議が参加委員の共通の理解のもと、有意義にすすめられるようお願いをするものである。

3. 議事

(事務局より要綱第7条にもとづき、議事進行を会長に依頼)

(1) 提案内容の確認について

(本日提案した資料内容について事務局、酒井副参事より説明)

本日の資料については、このあと提案していただく提案書として準備している。資料は、本文に規定すべき内容、前文に規定すべき内容についてのものであり、これはこれまでから細部にわたり検討していただいた成果内容であり、前回の部会において最終的な検証等もさせていただいているため、本日はこれを確認していただくというかたちでお願いしたい。

また、前文については、前回の部会でも協議いただいたが、すべてとりまとめて確

認するということができなかったため、本日最終確認をしていただいて、必要な箇所の加筆修正をしたい。

〔本文内容についての質疑〕

「全体に関すること・目的」のところの考え方で、「憲法で定める地方自治のあるべき姿」という表現があるが、「地方自治のあるべき姿」という表現ではこのイメージを表現できないのか。

これは、憲法の中に記述されている地方自治の本旨ということに記載したものであるが、誤解を生じるようであれば、「憲法で定める」という文言は削除する。なお、こうした地方自治に関する定義等の詳細は、地方自治法において詳しく記述されている。

多くの方が一定の解釈をしていただけるならこのままでよいが、いろんな考え方がでてくるならば、わかりやすくするために文言を削除することとしてはどうか。

「地方自治の本旨」という言葉がでてくるが、これの定義というものは、法令等で明確にされているものなのか。無いようであれば、表現を変えるとかさらに定義づけするなどの必要はないのか。

「地方自治の本旨」については、地方自治法にも記述されており、地方自治の本来のあり方や基本精神という意味に解釈される。この地方自治を実現するために住民自治と団体自治があるものとされており、ここではこれを法による定義がされていることを前提として示しているものである。

〔前文内容についての質疑〕

前回までの案では、言葉のいいまわしや歴史景観の表現でいくつかの指摘があったが、今回の資料ではうまく整理されているようである。

年内にこの条例案が提案され、その後さらに新たな市町合併があるということを踏まえ、歴史景観、自然環境の部分は変えることなく使っていけるような表現とすべきである。

前回までの意見等を参考に一部修正を加えているが、さらに必要な箇所があれば意見を伺いたい。

(協議中に提案された、いくつかの修正意見等を加えて「提案すべき内容」として整理)

(2) 講評(同志社大学政策学部教授 今川 晃 氏)

それでは他に意見等なければこれをもって、後ほど市長に提案させていただく内容とさせていただきます。

また、当初から委員会の運営に関わっていただいていたファシリテーターの中奥先生が急逝されたことから、その後は本日起ていただいている同志社大学政策学部の

今川晃先生に必要な応じいろいろな指導を受けてきたところであるが、本日提案のと
りまとめをするにあたり講評をお願いしたい。

〔講評〕

全体の内容としてはとても素晴らしいものとなっている。しかも市民の方がたいへ
んな時間をかけて作りあげてこられた成果であるので、他のものと比較して優劣を
つけるものではないと思っている。

そのうえでまず、言葉として用語の定義をいくつかされているが、参加と参画につ
いての使い分けで、一般的には、政策形成過程にかかわる場合を参画、その他のま
ちづくり活動などへのかかわりは参加という表現をしていることが多いことから、今後
の運用においては、こうした使い分けの意識をしていただくとよいと思う。

また、総合計画等への参画のところ、市民が計画と策定にかかわれるように「多
様な参画の方法を工夫すること」と表現されているが、これは条文の中にも是非取り
いれてほしい。なぜなら、参画の方法として絶えずその方法を工夫することを積み重
ね、活かし、発展させていくということが重要であるからである。一般的に、手法とし
ては、住民投票も重要であり、通常のパブリックコメントや審議会に市民をより多く入
れるような方法も大切であるが、今後はこの文言にのっとり新たに手法を開発してい
くんだというような前向きな取り組みを是非ともお願いしたいところである。

そして、条例ができた後、あるいはパブリックコメントをする中ででてくることが予想
される議論が、対等という意味についての考え方である。これは何がなんでも市民と
議会、行政の関係は対等ということではないということである。対等というもとの、市民
が議会をつくり、行政をつくっていくものであるということである。最終的には物事は、
法律で定められた決定権をもつものが最終決定を下すことになるが、これは正統性を
もつということであり、こうした適正な判断をするための環境づくりが市民参画や公聴
のテーマであることを理解いただきたい。それが、市民が議会や行政をつくりあげて
いくということのかかわりにおいて対等であるということだからである。

そのうえで市民参画については、従来の行政からアプローチする方法でなく、近年
は市民から政策提案をするようなシステムがつくられてきていることを踏まえ、条例と
してはこのままでもよいが、運用する中で条例の中に表現された言葉を活かすような
仕組みを構築していただきたいと思う。

そのほか特徴的なものとして、多文化共生についての内容も提案されているが、こ
れについては、今後いろいろな議論が発生してくると思う。たとえば永住外国人の
参政権や公務員への就労関係などいろいろなことがあるが、これらについても今後
の運用や議論をしていくなかで、仕組みとして構築していく必要があると思う。今回こ
の条例をきっかけとして、市としていろいろな取り組みが生まれてくるものと考えら
れるところであるが、意図的にこうした事項の記載を避けている自治体もあるなかで、提案内

容に盛りこんでいただいていることは意義のあることと思う。

また、自治基本条例の精神を総合計画をはじめいろいろな面で生かせるように工夫していくことが大切であると考え。そして、国県との関係においては上位法令の制約等で市としての活発な動きができないときに、この条例の基本方針にしたがって国県等に市から進言していくというようなことも考慮にいれていただきたいことである

最後に、条例ができた後の運用はたいへんな労力が必要であると考え、進行管理をしていくなど市全体において条例の運用体系の整備も必要となってくる。例えば、現行のもので何がこの条例に抵触するかなどのチェックも必要となり、行政運営すべてにわたって影響をもつものであるからである。それがこの条例が自治体憲法といわれる所以となっている理由のひとつであることをご理解をいただきたい。

以上、たいへん簡単であるが講評とさせていただきたい。

委員会はここで一旦終了ということになるが、今後はフォローアップする立場あるいは推進するための立場として、市への支援をしていくことが必要かと考える。

また、これまでから参画していただいた委員以外の方に、市全体としてこの理念をどう広めていくかなどの課題があるが、今後も是非とも協力していただくことをお願いし、本日の議事を終了させていただく。

4. 提案報告(川島市長に対し、会長から報告)

[報告にあたって(高橋会長)]

当策定委員会は、平成19年12月に、市民自治基本条例に関して、本条例に規定すべき内容についての検討依頼を受け、以後、平成21年4月までの間、12回の策定委員会と部会に加え、のべ18回のワーキング会議を開催し、本市の状況を踏まえつつ、先進都市の制定事例等を参考に、集中して議論を重ねてきたところである。

こうした経緯を踏まえ、市民参画を基本として、市民、市議会及び市がそれぞれの責任と役割分担に基づき、協働してすすめていく必要性と今後の合併による新たな長浜市を見つめるとき、住民が主体となり、各地域の特性に応じた「地域づくり」を行うとともに、「自主・自立のまち」を確かなものとするための仕組みを構築することが強く求められているところである。

このたびの報告においては、こうした基本的な自治の枠組みを明らかにするとともに、今後の新しい課題に対しても、一定の方向性とそれに必要な仕組みの提案であると考えている。

今後、市におかれては、この報告書をもとに内容の整理をしていただき、早期に条例としてまとめられることを期待するものである。

[報告に際して(川島市長)]

(これまでの検討と本日の報告に対するの礼を述べ)

本日も合併に関するの会合があったが、現況をみるなかで、現在の市の状況と6町の状況は自治(会)組織においてもすこしずつの違いがある。湖北はひとつといえども合併後は、多様な長浜市ということになるかと思われる。しかしながら、これまでの経緯をふまえ、住民自治というものをさらにすすめ、住民の皆さんが生き生きと地域社会で暮らしていただけるような仕組みづくりに取り組んでいきたい。また、6町からは、この合併を機会にこれまで行政で先立って行ってきたような自治(会)活動については、本来のかたちへ戻していきたいとの前向きな意見をいただけてきたところである

そうしたことから、この時期にこのようなご提案をいただくことはたいへんありがたいことであり、今後はこれにのっとり、がんばって取り組んでいきたいと考えている。

5. 閉会

本日、市長に手渡していただいた成果については、今後庁内での検討やパブリックコメントを経て条文化し、9月議会をめぐり条例として提案していきたい。

また、条例化されてからの運用が大切であるということであるので、各委員におかれても、さらにさまざまな活動に参画いただくことで協力願いたい。

加えて、昨年度に実施できなかった「つどい」についても今年度開催を予定しているほか、運用に関してご意見をお伺いする際には、ご協力方お願いしたい。

以上により、会議を了した。